

NEXT CONCERTS

>> 次回東京定期演奏会

第 **751** 回

サントリーホール

2023年6月 9日(金)19:00開演

10日(土)14:00開演

マエストロ大植英次、東京定期初登場!

指揮: **大植 英次**

ピアノ: **阪田 知樹**

ワーグナー: 楽劇《トリスタンとイゾルデ》より

「前奏曲と愛の死」

プロコフィエフ: ピアノ協奏曲第2番

チャイコフスキー: 交響曲第6番《悲愴》



©Ayuset

©飯島 隆

※当初発表表の内容から変更になりました

1回券料金 S ¥8,000 A ¥6,500 B ¥6,000 C 完売 P ¥4,000 Ys (25歳以下) ¥1,500

※障害者手帳をお持ちの方は割引がございますので、サービスセンターにお問い合わせください。

次回東京定期演奏会指揮者にインタビュー! 大植 英次 編

聞き手 八木 宏之

—2016年1月の初共演以来、大植さんは日本フィルの指揮台に度々招かれ、2018年には韓国ツアーも成功に導き、オーケストラとの信頼関係を深めてこられました。大植さんの考える日本フィルの個性とはどのようなものなのでしょうか?

日本フィルの魅力はなんといってもその深い音でしょう。弦楽セクションも本当に厚い響きを持っています。日本フィルのサウンドはきらびやかというよりもあたたかみがあり、そうした伝統は、私が桐朋学園の学生時代に、定期会員として日本フィルを聴きに通っていた頃から変わらずに受け継がれているものです。日本フィルの個性はとりわけロマン派のドイツ音楽やロシア音楽と相性が良いと思います。

—6月の東京定期演奏会のプログラムは、そのドイツ音楽とロシア音楽で構成されていますね。演奏会の冒頭を飾るワーグナーの《トリスタンとイゾルデ》は、大植さんがバイロイト音楽祭で指揮された作品でもあります。

バイロイト祝祭劇場で指揮した《トリスタンとイゾルデ》は特別な思いがある作品ですが、これまで日本ではあまり取り上げてきませんでした。今回の日本フィルが2回目です。〈前奏曲と愛の死〉は、20分くらいの時間のなかに楽劇のエッセンスが詰まっています。とりわけ〈愛の死〉は、本来ヒロインのイゾルデが歌う作品ですから、オーケストラだけで演奏するときにも、その歌を感じていただきたいですし、日本フィルからバイロイトのような響きを引き出せたらと思っています。

—プログラムのメインとなるチャイコフスキーの交響曲第6番《悲愴》は、チャイコフスキーが亡くなる9日前に初演された作品で、「死」のイメージがつかまといます。ワーグナーとチャイコフスキーが描いた死にはどんな違いがあるのでしょうか?

ワーグナーの描く死は、ファンタジーの世界の死です。それに対してチャイコフスキーの音楽に現れる死は現実世界の死であり、そこには現世の苦しみや悲しみが詰まっています。交響曲第6番は自伝的な作品であり、チャイコフスキー自身のために書かれた音楽なのです。私はこの作品を数えきれないほど指揮してきましたが、飽きるということは決してなく、いつも新鮮な気持ちで向き合っています。先ほどもお話した日本フィルの深みのあるサウンドは、まさにこの交響曲にふさわしいものだと思います。

—プロコフィエフのピアノ協奏曲第2番では、気鋭のピアニスト、阪田知樹さんと共演されます。阪田さんとは、2021年4月のNHK交響楽団の演奏会でもショスタコーヴィチのピアノ協奏曲第1番を演奏されています。阪田さんのピアニストとしての魅力はどんなところにあるのでしょうか?

N響の演奏会で共演したときも、本当に巧いピアニストだと感激しました。阪田さんは難しい作品も難しくと感じさせず、自らの技巧をひけらかすこともありません。これほどの次元に達しているピアニストは、世界にも数えるほどしかいないでしょう。今回演奏するプロコフィエフのピアノ協奏曲第2番は第3番より演奏される機会が少ないですが、ロシアの冷たさを自然な筆致で表現している作品で、阪田さんの研ぎ澄まされた音楽性が存分に発揮されると思います。

—大植さんの演奏はいつも、これまで聴いたことのないような、驚きと新鮮さとオリジナリティに満ちています。普段はどのような時間を過ごして、インスピレーションを得ているのでしょうか?

ひたむきに作品と向き合い、スコアを研究しているほかには、なにも特別なことはしていません。過去に演奏したことのある作品でも、新しい書き込みのないスコアを準備して、全てのパートをピアノで弾いてみることから始まります。それからスコアをじっくりと読んで、フレーズを組み立てていきます。そうすることで、作曲家が書いた音を自分の身体のなかに入れていくのです。ほかの指揮者の演奏をCDで聴くこともありません。作曲家のメッセージは自分とスコアとの対話のなかでしか発見できないのです。今回のプログラムにあるワーグナーもプロコフィエフもチャイコフスキーも、東京で指揮するのは初めての作品です。日本フィルとともに、作品を初演するような気持ちで演奏するので、ぜひ聴きにきていただけたら嬉しいです。

—大植さんの東京定期演奏会初登場、楽しみにしております!

助成:



文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術等総合支援事業(創造団体支援))
独立行政法人日本芸術文化振興会